

令和6年度 石田小学校 学力向上プラン

学校教育目標 人間性豊かで、たくましく、確かな学力を身に付けた児童の育成

【課題】※R5全国学力・学習状況調査及び教研式標準学力調査(CRT)の結果の分析

- 学年による差が非常に大きかった。
- 特に目標との差が大きかった学年では、A判定の児童の割合が、全国平均と比べると下回っている。
- 前学年までの学習が定着していない児童が多く、当該学年の理解に影響を及ぼしている。

【研究主題】 確かな学力を身に付けた子供の育成
～救全・救個を意識した算数科の実践を通して～

【仮説】 算数科において、書く活動及び説明活動の充実とともに、ふりかえる過程を充実させるための手立てを工夫・改善する取組を継続的に行えば、児童は確かな学力を身に付けるであろう。

① 学びを深める
『第五版』を具現化する学習指導の改善

「救全救個」の徹底

〈効果的なねりあげの工夫・改善〉

(しらべる過程)

- ・視点をもたせた書く活動の工夫(救個)
- ・学年の実態に応じた書く活動の取組(救個)

(ねりあげる過程)

- ・相手意識をもった説明の仕方(救全)
- ・視点をもたせた話し合いの充実(救全)
- ・切り込み発問の設定(救全)

〈ふりかえる過程における練習の質と量の充実〉

- ・10分間の確実な確保
 - ・教師の言葉の精選(救全)
 - ・学び方の定着(救個)
- ・個に応じた習熟を図るための練習問題の工夫
 - ・習熟度別学習の工夫(救個)
 - ・タブレットの活用(ミライシード)(救個)
- ・教師の個別支援の充実

授業改善を進めるための手立て

- ・『第五版』を拠り所とした授業の日常化「授業づくりの補助資料」の活用
- ・授業公開の積極的実施(「見られて磨く、見て学ぶ」の姿勢)
- ・授業研究会での授業分析シートの活用

② 基礎学力向上
基礎的・基本的な学習の定着

- ・基礎タイム(国語・算数)における、内容及び年間計画の見直しと徹底
- ・計算検定による計算力の向上
- ・タブレットの活用

③ 学習環境整備
理解度を上げる指導方法や学習の土台作り

- ・学習環境の整備
- ・読書の質・量の向上のための取組の工夫

【検証】

- ・検証軸1:全国平均値を上回る児童数の割合が50%を目指す。(R5:47.7%)
- ・検証軸2:算数アンケートを年に2回とって、「算数が好き」または「算数がだいたい好き」の割合を伸ばす。